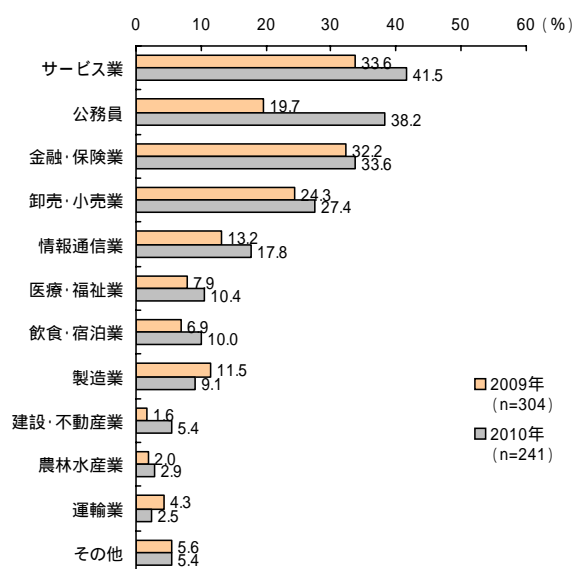


1. 就職に対する意識

(1) 希望職種

- ・ 最も多かったのは「サービス業」(41.5%) 次いで「公務員」(38.2%)、「金融・保険業」(33.6%)となった。
- ・ なかでも、公務員志望者は前回調査(09年)より18.5ポイント上昇しており、安定志向が一層強まっていることを確認できる結果となった。

図表-1 就職希望職種
(上位3つ以内で複数回答)

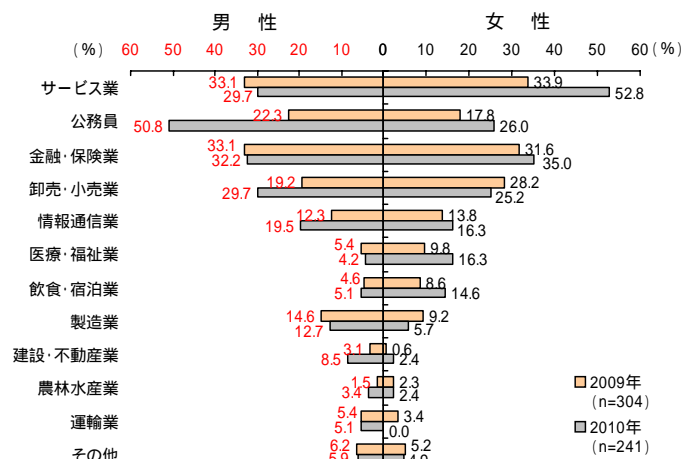


男女別にみると

- ・ 男性では「公務員」との回答が前回調査より28.5ポイント上昇し、50.8%と半数に達した。女性の回答率も26.0%と一定数には達しているものの、男性の方が安定を望む意識が強いと言えそうだ。
- ・ 女性では「サービス業」との回答が18.9ポイント上昇し52.8%となった。元々女性が多く、身近で馴染みのある職種のため選択肢の1つになりやすいのだろうか。
- ・ そのほか、全体に占める割合は小さいもの

の、「慢性的な人材不足」と言われている「医療・福祉業」や「飲食・宿泊業」の志望者が増えており、雇用のミスマッチ解消へ期待を抱かせる結果となった。

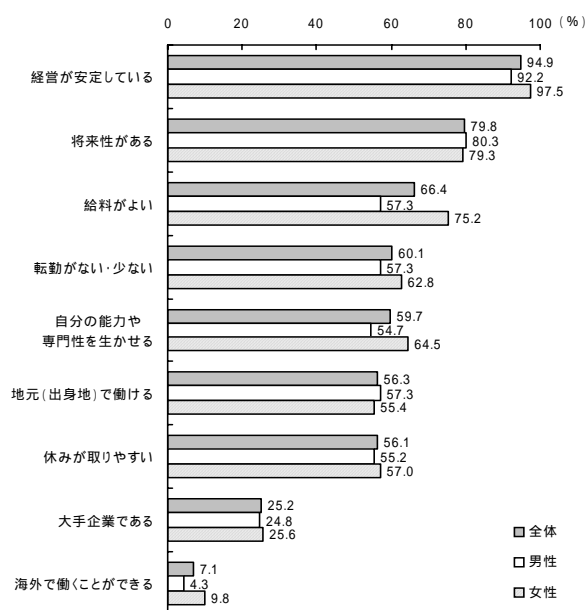
図表-2 就職希望職種
(性別、上位3つ以内で複数回答)



(2) 就職する際に重視すること

- ・ 就職する際に重視することで、最も多かったのは「経営が安定している」(94.9%) 次いで「将来性がある」(79.8%)、「給料がよい」(66.4%)となった。
- ・ 前回調査と比較すると、前回3位であった「地元(出身地)で働ける」が6位に後退し、逆に6位であった「将来性がある」が2位に浮上した。
- ・ 厳しい雇用環境を受け、企業規模の大小だけにこだわらず、視野を広げて就職活動に取り組もうという様子が見え始める。
- ・ 相対的に順位は下げたものの「地元(出身地)で働ける」との回答は約6割と、根強い地元志向も垣間見えた。
- ・ 男女別では、「給料がよい」との回答は女性が男性より17.9ポイント高く、金銭面での待遇に対するこだわりは女性の方が強いようだ。

図表-3 就職する際に重視すること
(n=238、複数回答)



| | 2009年 | 2010年 |
|---|-------------|-------------|
| 1 | 経営が安定している | 経営が安定している |
| 2 | 給料がよい | 将来性がある |
| 3 | 地元(出身地)で働ける | 給料がよい |
| ⋮ | ⋮ | ⋮ |
| 6 | 将来性がある | 地元(出身地)で働ける |

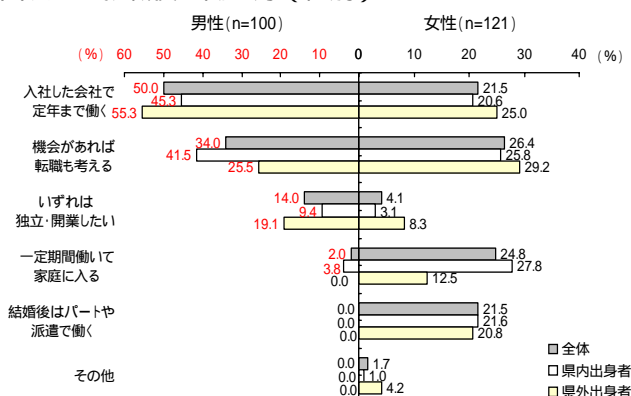
2. 就職後の働き方

- 男性は、半数が「入社した会社で定年まで働く」、約3割が「機会があれば転職も考える」と回答した。ここ数年、若年層の離職率の高さが指摘されているが、景気情勢を反映してか終身雇用を望む学生も多い。
- 一方で、14.0%は「いずれは独立・開業したい」と回答している。かつてのように給料が右肩上がりが増え続けることが当たり前のことではなくなった今、会社に属すること以外の選択肢を視野に入れている学生も少なからずいるようだ。
- 女性の場合は、結婚後も正社員として働きたい人とそうでない人とが半々に分かれた。女性の社会進出が進んだとは言え、結婚後は正社員として働き続けることを選択しな

い女性も多いと思われる。

- 「一定期間働いて家庭に入る」との回答は24.8%と、女子学生の4人に1人が専業主婦志向を持っている。この傾向は特に県内出身者に顕著にみられ、県外出身者の回答率12.5%に対し、県内出身者は15.3ポイント高い27.8%となった。県内女性と県外女性では、働き方に対する考え方に違いがあることがうかがえる結果となった。

図表-4 就職後の働き方(性別)



3. まとめ

今回のアンケート結果から、依然厳しい雇用環境を背景に、多くの学生が安定志向を一層強めている様子が浮き彫りとなった。景気は上向きに転じているものの、先行き不透明感から採用活動には慎重な姿勢を崩さない企業も多く、学生を取り巻く就職環境は景気動向をにらみながらの動きとなるだろう。

各企業には、これまで以上に学生と接する機会を増やすことが求められると同時に、学生にも希望する企業へ実際に足を運び、直接コミュニケーションを図るといった積極的な姿勢が求められよう。

(河野 静香)